

[氏名] 中澤 務

[専門分野] 西洋古代哲学、倫理学



新入生へのひとこと

文学部で学ぶ学問の多くは、文学、思想、歴史などの古典作品と密接に関わっています。古典と聞くだけで拒絶反応を起こす人も多いでしょう。しかし、古典を読み、過去の思想家と対話することは、自分の頭で考えるための必要不可欠の訓練です。逆に、古典を読まなければ、我々の思索は独りよがりになり、進歩しません。我々は、自分の問題を自分でしっかりと受け止めるために、古典を読まなければならないのです。それに、過去の思想家たちの考えた問題は、決して古臭い問題ではありません。現代にも通じる普遍的な側面を必ず備えているのです。4年間の学びの中で、自分の古典を発見してください。

講義のテーマと内容

《シリーズ1》 古典と私

講義テーマ：「古典との対話」(テキスト：プラトン『国家』)

この講義では、プラトン『国家』を手がかりにして、古典と対話することの意味を、私自身の経験談を交えつつお話ししたいと思います。『国家』は、西洋哲学の源流であるばかりでなく、政治学の源流でもあります。西洋においては、現代でも大きな影響を与え続けている書物ですが、名前ばかりが有名で、その中でプラトンが実際にどのような問題に取り組み、どのような思想を提示しているのかについては、あまり知られているわけではありません。そこで、この講義では、プラトンがこのような問題に取り組みきっかけになった時代背景とソクラテスの思想の問題から出発し、プラトンの考え方を説明していきたいと思います。また、現代において、特に政治思想との関係で、この作品がどのように受け止められてきたのかをお話し、現代における古典作品の意味を考えます。

《シリーズ2》 現代と私

講義テーマ：「遺伝子改造の倫理学」

21世紀は「生命の時代」と言われています。生命科学が日進月歩で発展し、ニュースに取り上げられない日はありません。こうした科学の発達は、われわれの生活をより豊かにしてくれるでしょう。しかしまた、こうした科学的発達が、さまざまな問題を引き起こすことも事実です。では、そのような状況の中で、哲学倫理学の果たすべき役割は何でしょうか？生命科学が発達し、いままでは不可能だったさまざまな生命操作の可能性が見えてきました。これによって、われわれの伝統的な生命に関する価値観は大きく変化せざるをえません。そんな中で、われわれはどのような新しい生命観、人間観を作り、どのような新しい社会を作っていくべきなのか。これが、哲学倫理学のこれからの大きな課題の一つになると考えられます。この講義では、クローン、再生医療、人体改造など、遺伝子工学の急速な発達がもたらしつつある生命操作の諸問題を哲学倫理的な観点から具体的に考えながら、問題を探っていきます。

リレー講義の参考文献

《シリーズ1》 古典と私：「古典との対話」

プラトン『国家』(上・下)(藤沢令夫訳、岩波文庫)

哲学の古典中の古典です。イデア論を初めとするプラトンの円熟期の哲学が体系的に展開されています。

プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』(三嶋輝夫・田中享英訳、講談社学術文庫)

プラトンの思想の出発点となった、ソクラテスの思想が凝縮された一冊です。

古東哲明『現代思想としてのギリシア哲学』、ちくま学芸文庫

古代ギリシア哲学の意義を、現代哲学の視点から解説した入門書です。

《シリーズ2》 現代と私：「遺伝子改造の倫理学」

金森修『遺伝子改造』、勁草書房

池田清彦・金森修『遺伝子改造社会 あなたはどうする』、洋泉社

上村芳郎『クローン人間の倫理』、みすず書房

リー・M・シルヴァー『複製されるヒト』、翔泳社

二回生以降に展開される授業内容（予定）

【哲学倫理学専修研究 . . .】 専修研究では、古代哲学に関する話題や、倫理学の問題について、より踏み込んだ専門的な話題を提供します。

【哲学倫理学専修ゼミ . . .】 専修ゼミでは、卒業論文の作成に向けた基礎的訓練を中心におこないます。哲学・倫理学研究におけるオーソドックスな問題を検討する作業を通じて、テキストの読み方、問題の設定方法、資料の検索と利用の仕方、説得力のある議論の組み立て方、結論のまとめ方など、卒業論文執筆のための基本的な技法を学びます。さらに、受講者各自が自分の問題を設定し、研究発表および小論文作成を行ないます。

【専修関連科目（西洋古代・中世哲学 a・b）】 二次以降を対象とした講義科目で、西洋哲学の基礎知識を身につけるのが目的です。ギリシア哲学は西洋哲学の源流であり、西洋の世界観の基礎を作りました。このギリシア哲学の強い影響の下、キリスト教の考え方の哲学的基礎を築いたのが中世哲学です。哲学に限らず、西洋文化を理解するためには、この2000年におよぶ壮大な知の営みを把握することが不可欠です。講義では、歴史的流れをつかみやすいように注意しながら、各時代を代表する哲学者たちの思想を詳しく紹介しています。また、そのような思想が生れた歴史的・文化的背景や、それらが現代の我々に対して持つ意義などについてもお話しています。

専門分野の紹介

西洋古代哲学（ギリシア哲学）と倫理学の分野を中心に研究しています。

西洋古代哲学では、ソクラテスとプラトンの作品を中心に、古代ギリシアの哲学者たちの思想を研究しています。これまで主に取り組んできたのは、ソクラテスの倫理思想の研究で、ソクラテスの対話と「無知の知」の思想の関連を、プラトンの初期作品の分析から考察しました。その成果は、『ソクラテスとフィロソフィア』（ミネルヴァ書房、2007年）にまとめられています。そのほか、プラトンの倫理思想、言語哲学、形而上学、アリストテレスの倫理思想などを中心に、幅広く研究をしています。

倫理学分野では、おもに現代の生命倫理学の問題を、現代の分析哲学の手法を使って考察する研究をおこなってきました。取り上げているテーマは、クローン人間禁止の倫理的根拠、ヒト胚研究の倫理的問題など、最先端の生命科学の問題が引き起こす倫理的諸問題が中心です。また、最近では、ギリシア哲学の影響のもとに、現代の倫理学理論のひとつとして注目されるようになった「徳の倫理学」に関心を持ち、研究を進めています。

学部・大学院の授業では、以上のような問題を中心に、いろいろな話題を取り上げています。卒業論文の指導や大学院での指導も同様で、ギリシア哲学や倫理学を中心に、さまざまな問題を取り上げています。

その分野を知るためのおすすめの本

ここでは、最初に出会ってほしい哲学の古典を紹介します。いずれも入手しやすく読みやすいものばかりです。「新入生へのひとこと」に書いたように、優れた作品との出会いが学びを豊かにします。（倫理学に関しては、「リレー講義の参考文献」を参照してください。）

プラトン『国家』（上・下）藤沢令夫訳、岩波文庫

アリストテレス『ニコマコス倫理学』（上・下）高田三郎訳、岩波文庫

アリストテレスの著作の多くは極めて難解ですが、この著作は比較的容易に読み進めることができます。アリストテレスに限らずギリシア人は、人生の究極目的を「幸福」と捉え、それを実現するための倫理的な性格（「徳」）の分析を倫理学の根本的な課題と考えました。この書物では、こうしたギリシアの倫理学が体系的に展開されています。

セネカ『人生の短さについて 他二編』、茂手木元蔵訳、岩波文庫、1980年。マルクス・アウレーリウス『自省録』、神谷美恵子訳、岩波文庫

いずれもローマ時代に活躍したストア派の哲人たちです。その言葉は、混乱した世界を生き抜くための洞察に満ちています。

アウグスティヌス『告白』、山田晶訳、（中公バックス『世界の名著』14所収）中央公論社

教父アウグスティヌスが、キリスト教に回心していく自らの心の遍歴を描いた告白文学の傑作です。哲学書としても一流で、中でも第十一巻で展開される時間の本性を巡る考察は時間論の白眉といえます。